

## 令和6年度単位互換授業履修対象科目（前期）一覧

構成機関名

（ 秋田公立美術大学 ）

| No. | ページ | 授業科目名      | 担当教員   | 単位数 | 学期（ ）内初日 | 受入数 | 学部等      | 曜日/時限 | 備考 |
|-----|-----|------------|--------|-----|----------|-----|----------|-------|----|
| 1   | 1   | 文化人類学特論    | 石倉 敏明  | 2   | 前期(4/17) | 若干名 | 美術学部美術学科 | 水/2   |    |
| 2   | 2   | 東北生活文化論    | 石倉 敏明  | 2   | 前期(4/18) | 若干名 | 美術学部美術学科 | 木/3   |    |
| 3   | 3   | 日本彫刻史      | 井上 豪   | 2   | 前期(4/17) | 若干名 | 美術学部美術学科 | 水/3   |    |
| 4   | 4   | 東洋美術史      | 井上 豪   | 2   | 前期(4/18) | 若干名 | 美術学部美術学科 | 木/5   |    |
| 5   | 5   | シルクロード図像学1 | 井上 豪   | 2   | 前期(4/12) | 若干名 | 美術学部美術学科 | 金/1   |    |
| 6   | 6   | 美術理論・美術史   | 井上 豪   | 2   | 前期(4/12) | 若干名 | 美術学部美術学科 | 金/4   |    |
| 7   | 7   | 日本美術史      | 佐治 ゆかり | 2   | 前期(4/18) | 若干名 | 美術学部美術学科 | 木/2   |    |
| 8   | 8   | 日本建築史1     | 石渡 雄士  | 2   | 前期(4/18) | 若干名 | 美術学部美術学科 | 木/1   |    |
| 9   | 9   | 近代建築史      | 石渡 雄士  | 2   | 前期(4/15) | 若干名 | 美術学部美術学科 | 月/1   |    |

**【注意事項】**

聴講にあたっては、該当科目のシラバスをご確認ください。

『特別聴講学生入学願』の提出期日： 令和6年4月1日(月)

シラバス参照

|         |            |
|---------|------------|
| 講義名     | 文化人類学      |
| (副題)    |            |
| 講義区分    | 講義         |
| 基準単位数   | 2          |
| 時間割     | 木曜日 3 時限   |
| 授業科目区分  | 教養科目－歴史と文化 |
| 履修区分    | 必修科目       |
| 配当年次・学期 | 2年次後期      |

担当教員

|         |
|---------|
| 氏名      |
| ◎ 石倉 敏明 |
| 唐澤 太輔   |

|              |   |
|--------------|---|
| 授業の到達目標及びテーマ | 文化人類学は地球上のさまざまな民族文化に学び、人類の心の普遍性を核とするユニークで多様な表現や思想、生活様式を理解する方法である。本講義では、諸々の文化の根源にあるコスモロジーと思想、神話や祭り、経済活動や労働、エコロジーや時間／空間認識といった問題を通してこの方法を深め、日本列島の思想表現と世界の文化を統一的に理解するための考察力を養う。また、地球上のさまざまな地域の芸術実践を知ることにより、歴史と神話の中で生きている人間の条件を理解し、人間と非人間の共存から生み出される多様な表現と創造性についての理解を深める。  |
| 授業の概要        | 本講義では、人間が人間自身の営為について再帰的に思考する方法である人類学の知見をもとに、異なる習慣や文化をもつ人びとが持つ個性と共通性への理解を深め、人類の心の普遍性という視点から探究する。講義では映像やテキストを使用し、世界中のさまざまな集団が築き上げてきた芸術表現を通して、その多様性と普遍性に迫る。ここでは特に文化における対立する原理間の相互作用に着目し、神話と歴史、贈与と交換、夢と覚醒、生産と消費、労働と遊びなど、異なる原理の組み合わせによって構築される「複論理 bi-logic」のダイナミズムについて学ぶ。  |
| 授業計画         | 第1回 コスモスとの出会い <あわい>の空間(コンタクト・ゾーン)をひらく<br>第2回 神話と歴史: 人間はなぜ物語を必要とするか?<br>第3回 集団と個人: 人格と記号的身体、生きづらさと差別<br>第4回 セックスとジェンダー: 「生殖」と「生の愉悦」は矛盾するか?<br>第5回 贈与と交換: アフリカの二つの社会について<br>第6回 食とエネルギー: 我食べ(られ)るゆえに我あり?<br>第7回 住居とコスモロジー: 「場所」と「非場所」の間で<br>第8回 時間と空間: 「祭り」「芸能」を通して生き続けるもの<br>第9回 芸術と聖性: <永続するもの>と<朽ちていくもの><br>第10回 労働と遊び: 生きがい・報酬・至高性<br>第11回 災害とエコロジー: クリティカル・ゾーンとしての地球<br>第12回 人間と非人間: 「人間以上の世界」を真剣に受け取る<br>第13回 政治と世界化: アンチ・レイシズムと脱植民地主義<br>第14回 存在と生成: <文化の多様性>から<人間生成>の展望へ<br>第15回 「共異体」の人類学: 非同一性による共同体の理論 |
| 授業時間外の学習内容等  | ・自分の関心の外にいる、未知の他者／文化と出会い、対話し、学ぶこと。<br>・公共図書館や大学図書館を利用し、各自の関心に応じて関連文献や映像資料等を調べること。<br>・旅行・映画・音楽・書籍・祭事・美術・演劇等、ひろく文化全般に関心をもって学ぶこと。<br>・身の回りの出来事、景観や自然生態、生活のなかの政治を観察し、常識の根拠を問うこと。   |
| 評価方法         | 授業への取り組み 30% 課題の成果(試験・レポート) 70%   |
| 履修上の注意       | 配布資料のほか、適宜映像資料を使用します。なお、新しい研究成果を授業に反映させるため、各回の内容や順番を変更することがあります。  |
| テキスト         | 各回のテキストは適宜配布します。  |
| 参考書・参考資料等    | ティム・インゴルド『人類学とは何か』、ステューブ・ミズン『心の先史時代』、D.ルイス＝ウィリアムズ『洞窟のなかの心』、石倉敏明・田附勝『野生めぐり』、奥野克巳・石倉敏明『LEXICON 現代人類学』、唐澤太輔『南方熊楠の見た夢』、中沢新一『カイエ・ソバージュ』(全5巻)、松村圭一郎『はみだしの人類学』、河合隼雄『神話と日本人の心』、クロード・レヴィ＝ストロース『野生の思考』、奥野克巳・GOMA『マンガ人類学講義』など。   |

シラバス参照

|         |            |
|---------|------------|
| 講義名     | 東北生活文化論    |
| (副題)    |            |
| 講義区分    | 講義         |
| 基準単位数   | 2          |
| 時間割     | 木曜日3時限     |
| 授業科目区分  | 教養科目—歴史と文化 |
| 履修区分    | 選択科目       |
| 配当年次・学期 | 1・2年次前期    |

担当教員

氏名

◎ 石倉 敏明

|              |  |
|--------------|--|
| 授業の到達目標及びテーマ | 東北には、生と死、人間と非人間を分離することのない、特徴的な文化が現在も各地で継承されている。本講義では秋田を中心に、東北地域全般の特色ある生活文化を主題とする。各地域の文化的多様性を正しく理解することによって、国家以前から多種多様な集団が共存し続けてきたダイナミックな場所性の認識を再獲得し、地球規模の見取り図の中に東北を位置付ける視点を学ぶ。講義の主題に関係するさまざまな資料だけでなく、物語や芸術表現（作品・プロジェクト・建築等）を参照し、新たな世界形成のなかに活かされる歴史的存在論を獲得する。  |
| 授業の概要        | 東北の人々が口にする「故郷には何も無い」というありふれた認識は、果たして正しい歴史や社会的現実を反映しているのだろうか？大都市圏出身の多くの知識人やアーティストが陥ってきた「進歩的な都会」vs「経済発展が遅れた田舎」という二項対立の認識は、果たして正当なものだろうか？ 無意識のバイアスは、むしろ豊かな歴史を歪め、地方と都市の位置付けを乱暴に固定してきてしまっているのではないだろうか？<br><br>この授業では旧石器時代・縄文時代から現在に至る東北地方の生活文化史を概観すると共に、特に秋田地域で育まれてきた生活様式や生業のあり方、祭礼、行事、芸術、思想について、周辺地域の特色とも比較しながら考察する。人類学をはじめ考古学、民俗学、神話学、生態学などの横断的な見地から東北地方の実態を見つめ、地域文化の独自性や、近代において創られた伝統の特徴を、さまざまな角度から検証する。また、アイヌや蝦夷（先住民）の文化との関連を考察することにより、この地域の里山・里海・里川での生活文化を、日本列島を越えて東アジアや環太平洋の文化的なつながりの中に位置づけ、人類の普遍性の中で地域社会の文化的なルーツを探究する。 |
| 授業計画         | 第1回 世界のなかの「東北」 環太平洋における縄文文化<br>第2回 旧石器時代から縄文時代への連続性・不連続性<br>第3回 源流としての狩猟採集生活 プナ帯の生態、狩猟採集文化について<br>第4回 「東北の隣人＝他者」としてのアイヌ文化を知る アイヌモシリとは何か？<br>第5回 アイヌと東北の生態宇宙論<br>第6回 神仏和合の山々 出羽三山と鳥海山他、山々の神話学<br>第7回 死と再生の森 曼荼羅と母胎、ウバサマ信仰・ハヤマ信仰の広がり<br>第8回 水界のフォークロア 三湖伝説と藻が海伝説<br>第9回 里山と里川 身近な自然との関わり、鮭と熊の神話<br>第10回 東北的アニミズム 草木供養塔と本覚思想<br>第11回 神話・芸能・伝承 だんぶり長者伝説と大日堂舞楽<br>第12回 来訪する精霊 ナマハゲからサンタクロースまで<br>第13回 マタギの思想と実践<br>第14回 鎮魂と創造 東日本大震災以後の東北像<br>第15回 「裏日本」文化論 「環日本海」からの視点<br>(定期試験またはレポート)                                      |
| 授業時間外の学習内容等  | ・各自の関心に応じて、特徴ある文化を伝える場所やまつりに適宜出かけてみることに。<br>・関心のある地域の行事を観察し、積極的に参加してみることに。<br>・映像や文献史料を通して、学問分野を超えた「歴史的視点」を養うことに。  |
| 評価方法         | 授業への取り組み 30% 課題の成果（試験、レポート） 70%  |
| 履修上の注意       | 配布資料のほか、適宜映像資料を使用します。なお、新しい研究成果を授業に反映させるため、各回の内容や順番を変更することがあります。<br>*期間中、唐澤太輔先生に担当回をお願いする可能性があります。   |
| テキスト         | 各回のテキストは適宜配布します。   |
| 参考書・参考資料等    | 山内明美『子ども東北学』、石倉敏明・田附勝『野生めぐり』、菊地和博『シン踊り』、小野和子『あいたくて、ききたくて、旅にでる』、知里幸恵『アイヌ神謡集』、柳田國男『遠野物語』、岩崎敏夫『東北民間信仰の研究』、中沢新一『哲学の東北』、千歳栄『山の形をした魂』、田附勝『東北』、あんぱいこう『中島のてっちゃん』等。   |

シラバス参照

|         |                        |
|---------|------------------------|
| 講義名     | 日本彫刻史                  |
| (副題)    |                        |
| 講義区分    | 講義                     |
| 基準単位数   | 2                      |
| 時間割     | 水曜日3時限                 |
| 授業科目区分  | 専門科目－専門共通科目－美術理論・美術史科目 |
| 履修区分    | 選択科目                   |
| 配当年次・学期 | 2・3年次前期                |

担当教員

|        |  |
|--------|--|
| 氏名     |  |
| ◎ 井上 豪 |  |

|                 |  |
|-----------------|--|
| 前提とする授業、密接に係る授業 | 「美術理論・美術史」「日本美術史」「東北造形史」と一部内容が関連する   |
| 授業に関連するキーワード    | 仏像 日本史   |
| 授業の到達目標及びテーマ    | 仏教彫刻を中心に日本彫刻史の流れを概観する。飛鳥時代の仏教受容に始まる日本の仏教美術は、大陸の先進文化を吸収しながら常に時代の先端として古代美術の世界を牽引してきた。本講座では日本を代表する名品について理解を深め、同時に宗教彫刻が表現する「時代の精神」について学びたい。様々な角度から総合的な彫刻史の理解を目指すのが目標である。   |
| 授業の概要           | 主に仏教美術の受容期と定着期に目を向け、仏像の名品を解説する。古代美術はどのように受容され日本の中でどのような流れを生んできたのか。スライドで作例の特徴を観察し、同時に文献資料などから制作事情や伝来など作例の背景を考えながら、時代の空気と不可分な仏像の表現を立体的に学んでいきたい。  |
| 授業計画            | <p>第1回：序・彫刻芸術と「偶像」について</p> <p>第2回：仏像の見方</p> <p>第3回：仏教伝来と飛鳥寺の造営</p> <p>第4回：法隆寺釈迦三尊像とその周辺～飛鳥止利様式</p> <p>第5回：法隆寺四十八体仏と白鳳様式論</p> <p>第6回：山田寺仏頭～国家官寺の時代</p> <p>第7回：薬師寺聖観音像と薬師三尊像～白鳳から天平へ</p> <p>第8回：東大寺大仏とその周辺</p> <p>第9回：法華堂と戒壇院</p> <p>第10回：興福寺・阿修羅像と八部衆十大弟子</p> <p>第11回：唐招提寺と一木造</p> <p>第12回：東寺講堂と密教彫刻</p> <p>第13回：寄木造と定朝様式</p> <p>第14回：運慶・快慶と鎌倉美術</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>※場合により一部入替や変更もありうるので了承されたい。</p> |
| 授業時間外の学習内容等     | 図書館蔵書等の資料を読むことで授業を振り返り、理解を深める。   |
| 評価方法            | 試験の成績に授業態度を加味し、授業への取り組み20%、試験成績80%として採点する。単位認定要件は100点満点で60点以上とする。  |
| 履修上の注意          | 講義は一回完結の「読み切り」形式で進める。欠席しても次回の講義に支障は出ないが、欠席した回の内容は取り返しが利かないので注意されたい。  |
| テキスト            | 内容に応じ毎回資料を作成、配付する。書籍等のテキストは使用しない。  |
| 参考書・参考資料等       | 必要に応じ講義の中で紹介する。  |

ウインドウを閉じる

シラバス参照

|         |                        |
|---------|------------------------|
| 講義名     | 東洋美術史                  |
| (副題)    |                        |
| 講義区分    | 講義                     |
| 基準単位数   | 2                      |
| 時間割     | 木曜日 5 時限               |
| 授業科目区分  | 専門科目－専門共通科目－美術理論・美術史科目 |
| 履修区分    | 選択科目                   |
| 配当年次・学期 | 1・2 年次前期               |

担当教員

|        |
|--------|
| 氏名     |
| ◎ 井上 豪 |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業に関連するキーワード | 中国 古代美術 遺跡 古代文化  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 中国の古代美術を概観する。数千年の歴史をもつ中国美術は時代と共に姿を変え、周辺民族とともにアジア文化の基層を形作ってきた。古代作品の数々は、我々の「失われた原点」をそのまま体現した貴重な遺産といえよう。<br>本講座ではスライドによる作品紹介と共に、文献や考古資料を用いた文化史的背景の考察も重視する。各時代特有の美術表現と、それを生んだ古代社会の風土や社会の在り方を学び、美術表現の持つ「世界観」についての理解を目指したい。                                |
| 授業の概要        | 中国の古代美術を年代順に取り上げ個別に紹介する。スライドや配付資料を用いた作品解説だけでなく、考古学の知見に基づく遺跡の概要や文学史・哲学史から見た当時の文化的背景の考察なども重視、総合的な見地から美術表現とは何かを考えていきたい。   |
| 授業計画         | 第1回 序～古代美術と現代社会<br>第2回 殷周青銅器<br>第3回 三星堆遺跡と長江文明<br>第4回 曾侯乙墓<br>第5回 始皇帝陵<br>第6回 兵馬俑坑<br>第7回 馬王堆漢墓<br>第8回 馬王堆帛画<br>第9回 滿城漢墓<br>第10回 龍と雲気文<br>第11回 魏晉南北朝の書画<br>第12回 唐代壁画古墳<br>第13回 法門寺の宝物<br>第14回 宋代絵画の展開<br>第15回 まとめ<br><br>※場合により一部入替や変更もありうるので了承されたい。 |
| 授業時間外の学習内容等  | 図書館蔵書等の資料を読むことで授業を振り返り、理解を深める。   |
| 評価方法         | 試験の成績に授業態度を加味し、授業への取り組み20%、試験成績80%として採点する。単位認定要件は100点満点で60点以上とする。  |
| 履修上の注意       | 講義は一回完結の「読み切り」形式で進める。欠席しても次回の講義に支障は出ないが、欠席した回の内容は取り返しが利かないので注意されたい。  |
| テキスト         | 内容に応じ毎回資料を作成、配付する。書籍等のテキストは使用しない。  |
| 参考書・参考資料等    | 必要に応じ講義の中で紹介する。  |

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

|         |                        |
|---------|------------------------|
| 講義名     | シルクロード図像学 1            |
| (副題)    |                        |
| 講義区分    | 講義                     |
| 基準単位数   | 2                      |
| 時間割     | 金曜日 1 時限               |
| 授業科目区分  | 専門科目－専門共通科目－美術理論・美術史科目 |
| 履修区分    | 選択科目                   |
| 配当年次・学期 | 3・4 年次前期               |

担当教員

|        |
|--------|
| 氏名     |
| ◎ 井上 豪 |

|                   |  |
|-------------------|--|
| 前提とする授業、密接に関係する授業 | 「美術理論・美術史」「日本彫刻史」等と一部内容が関連している。  |
| 授業に関連するキーワード      | シルクロード 仏教美術  |
| 授業の到達目標及びテーマ      | 東西文明の行き交う絹の道は、インドから東アジアへ向かう仏教美術の道としても重要である。古代シルクロードの美術は、インドをはじめベルシアや西洋など様々な要素が混じり合い、それらが渾然一体となって独特の世界観を形作ってきた。本講座では仏教美術を中心にガンダーラから中央アジアにかけて作例を取り上げ、ベルシアやギリシアなど各地の遺品にその源流を辿りながら図像変遷の過程を追っていく。広大なユーラシア大陸を舞台に展開した、壮大な文化交流の姿について解説する。  |
| 授業の概要             | 仏教美術に見られる様々なモチーフを毎回取り上げて解説し、図像バリエーションとその意味について考察する。スライドを用いた図像観察と配付資料による文化的考察を並行し、多角的視点から古代美術を捉えていきたい。  |
| 授業計画              | <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 ストゥーバから五重塔へ</p> <p>第3回 如来の服制と僧侶の袈裟</p> <p>第4回 菩薩の宝冠</p> <p>第5回 神将の甲冑</p> <p>第6回 執金剛神の図像</p> <p>第7回 邪鬼と崑崙奴</p> <p>第8回 風神の色々</p> <p>第9回 仏教における龍のイメージ</p> <p>第10回 如意宝珠の形象</p> <p>第11回 飛天の姿</p> <p>第12回 極楽のイメージ</p> <p>第13回 須弥山と崑崙山</p> <p>第14回 仏足跡と瑞像図</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※場合により一部入替や変更もありうるので了承されたい。</p> |
| 授業時間外の学習内容等       | 図書館蔵書等の資料を読むことで授業を振り返り、理解を深める。   |
| 評価方法              | 試験の成績に授業態度を加味し、授業への取り組み20%、試験成績80%として採点する。単位認定要件は100点満点で60点以上とする。  |
| 履修上の注意            | 講義は一回完結の「読み切り」形式で進める。欠席しても次回の講義に支障は出ないが、欠席した回の内容は取り返しが利かないので注意されたい。  |
| テキスト              | 内容に応じ毎回資料を作成、配付する。書籍等のテキストは使用しない。  |
| 参考書・参考資料等         | 必要に応じ講義の中で紹介する。  |

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

|         |                        |
|---------|------------------------|
| 講義名     | 美術理論・美術史               |
| (副題)    |                        |
| 講義区分    | 講義                     |
| 基準単位数   | 2                      |
| 時間割     | 金曜日 4 時限               |
| 授業科目区分  | 専門科目—専門共通科目—美術理論・美術史科目 |
| 履修区分    | 必修科目                   |
| 配当年次・学期 | 1 年次前期                 |

担当教員

|        |
|--------|
| 氏名     |
| ◎ 井上 豪 |
| 名原 宏明  |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 前提とする授業、密接に関係する授業 | 「東洋美術史」「西洋美術史」と内容が関連している。   |
| 授業に関連するキーワード      | 授業計画の各回の表題を参照。  |
| 授業の到達目標及びテーマ      | 人間に固有の美術の基礎概念を理解するとともに、日本をふくむ東洋と西洋における美術創作の歴史を学ぶことによって、美術についての基礎的な知識を身につけることを目指す。   |
| 授業の概要             | 美術とは何か、美術の歴史とはなにか、という基本的な問題について、平易に解説する。古代ギリシアから20世紀のモダン・アートにいたる西洋美術の様式変遷と日本をふくむ東洋美術の様式変遷を概説する。   |
| 授業計画              | <p>1 回 授業概要<br/>                 第 2 回 古代ギリシア・ローマ<br/>                 第 3 回 初期キリスト教美術、ビザンティン<br/>                 第 4 回 ロマネスク、ゴシック<br/>                 第 5 回 ルネサンス<br/>                 第 6 回 バロック、ロココ<br/>                 第 7 回 新古典主義、ロマン主義、写実主義<br/>                 第 8 回 印象派からモダニズム、まとめ<br/>                 以上を名原宏明が担当する。</p> <p>第 9 回 古代インドのストゥーパ浮彫<br/>                 第 10 回 ガンダーラ美術<br/>                 第 11 回 シルクロードの仏教美術<br/>                 第 12 回 中国初期仏教美術<br/>                 第 13 回 河西回廊石窟群<br/>                 第 14 回 雲岡石窟<br/>                 第 15 回 龍門石窟<br/>                 以上を井上豪が担当する。</p> <p>※場合により一部変更もあり得るので了承されたい。</p> |
| 授業時間外の学習内容等       | 授業中に配布する資料をつかい予習と復習をおこなって講義内容の理解を深める。   |
| 評価方法              | 授業への取組み(40%)、レポート(60%)を基本に総合的に評価し、60点以上を単位認定要件とする。  |
| 履修上の注意            | 教員免許状取得のための必修科目。  |
| テキスト              | 特に定めない。   |
| 参考書・参考資料等         | 授業において適宜紹介する。   |

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

|         |                        |
|---------|------------------------|
| 講義名     | 日本美術史                  |
| (副題)    |                        |
| 講義区分    | 講義                     |
| 基準単位数   | 2                      |
| 時間割     | 木曜日 2 時限               |
| 授業科目区分  | 専門科目－専門共通科目－美術理論・美術史科目 |
| 履修区分    | 必修科目                   |
| 配当年次・学期 | 1・2 年次前期               |

担当教員

|          |  |
|----------|--|
| 氏名       |  |
| ◎ 佐治 ゆかり |  |

|              |  |
|--------------|--|
| 授業に関連するキーワード | 日本美術   |
| 授業の到達目標及びテーマ | 日本美術の「名作」とおして、日本の造形をめぐる基礎的な知識、観察力を身につけ、先入観や既成概念に頼らない自律的な鑑賞能力、観察力を養う。   |
| 授業の概要        | 日本美術史は、現存する「もの（造形）」を対象として、歴史、哲学、美学、思想、社会学、技術史など、様々な領域の視点を総合して分析し、考察し、記述し、日本的造形について構想する学問である。本講義では、原始から近世以前の「名作」をとり上げて、表現の特色、時代背景や制作の意図、作り手の意識、それを受容し、支えた社会、伝えてきた人々の思いなど、様々な視点による最新の研究成果をふまえて読み解きながら、日本美術の史的展開を俯瞰する。<br>さらに、明治以降の社会背景や価値観の大きな変化のなかで、日本の「造形」はどのように展開してきたのか、新たな美術史構想を試みる。   |
| 授業計画         | 第1回 ガイダンス 授業内容の説明<br>第2回 縄文・弥生・古墳時代～日本美術の原型、固有性<br>第3回 飛鳥・奈良時代～古代国家の成立と造形<br>第4回 平安時代1～請来から和様へ<br>第5回 平安時代2～請来から和様へ<br>第6回 平安時代3～請来から和様へ<br>第7回 鎌倉時代～美意識の継承と変革<br>第8回 南北朝から室町時代～禅の受容と展開<br>第9回 室町時代～土佐派と狩野派、洛中洛外図屏風の視点<br>第10回 桃山時代～染織の革新、権力と絵画、茶の湯の造形、南蛮との出会い<br>第11回 江戸時代1～日本美術の「アカデミズム」と「逸脱」<br>第12回 江戸時代2～浮世絵の誕生と展開、総合芸術としての染織<br>第13回 幕末・明治～「日本美術」の誕生（外部講師）<br>第14回 日本美術「未来史」（外部講師）<br>第15回 まとめ、小試験 |
| 授業時間外の学習内容等  | 授業で扱った作品、制作者を、画集や研究書、web等で確認しておくこと。  |
| 評価方法         | 授業への取組姿勢および期末レポートにより評価する。  |
| 履修上の注意       | 授業に基づいたレポート課題となるので適宜ノートを取りながら受講すること。   |
| テキスト         | 適宜、授業内にプリントを配布する。  |
| 参考書・参考資料等    | 『＜日本美術＞誕生』 佐藤道信 講談社 1996年<br>『日本美術の歴史』 辻惟雄 東京大学出版会 2005年<br>『日本美術史』（美術出版ライブラリー歴史編）山下裕二、高岸輝監修 美術出版社 2014年   |

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

|         |                        |
|---------|------------------------|
| 講義名     | 日本建築史 1                |
| (副題)    |                        |
| 講義区分    | 講義                     |
| 基準単位数   | 2                      |
| 時間割     | 木曜日 1 限目               |
| 授業科目区分  | 専門科目—専門共通科目—美術理論・美術史科目 |
| 履修区分    | 選択科目                   |
| 配当年次・学期 | 2・3 年次前期               |

担当教員

|         |
|---------|
| 氏名      |
| ◎ 石渡 雄士 |

|                   |  |
|-------------------|--|
| 前提とする授業、密接に関係する授業 | 日本建築史 2 と関係するが必須ではない。日本建築史 1 は古代～中世、日本建築史 2 は近世の建築や都市を主な対象としており、両者を受講することで日本建築史の全体像が理解できる構成となっている。   |
| 授業に関連するキーワード      | 古建築の空間構造、様式、都市空間と成り立ち。   |
| 授業の到達目標及びテーマ      | 古代から中世までにおけるわが国の建築や都市の変遷を理解する。<br>建築や都市の歴史を基礎知識として身に付けるとともに、それ等を正しく人に伝えることが出来るようになること。   |
| 授業の概要             | 各時代の建築様式の変遷及び都市や地域の成り立ちなどについて学ぶ。また、日本建築史の理解を深め、視野を広げるために関連する西洋建築史や近代建築史、現代建築等についても扱う。  |
| 授業計画              | 以下の構成で講義を進めるが、進捗状況などにより順序やテーマを変える場合がある。<br>第 1 回 ガイダンス<br>第 2 回 古代1：先史建築の発生と発達の要因<br>第 3 回 古代2：古墳の造形と立地<br>第 4 回 古代3：神社建築の成立<br>第 5 回 古代4：飛鳥・奈良時代の寺院建築<br>第 6 回 古代5：平安時代の寺院建築<br>第 7 回 古代6：神社建築の発展<br>第 8 回 古代7：住宅建築（寝殿造）<br>第 9 回 古代8：古代都市（都城など）<br>第10回 中世1：中世における建築様式の特徴<br>第11回 中世2：大仏様、禅宗様、和様<br>第12回 中世3：住宅建築（書院造の誕生）<br>第13回 中世4：中世都市1（港町、宿場など）<br>第14回 中世5：中世都市2（戦国城下町）<br>第15回 まとめ<br><br>○実務経験のある教員等による授業科目に該当 |
| 授業時間外の学習内容等       | 配布資料および参考文献等を読むことで理解を深め、関連する建築や都市を実際に訪れて理解を深める。  |
| 評価方法              | 期末レポート 100%  |
| テキスト              | 授業内に適宜プリントを配布する。   |
| 参考書・参考資料等         | 授業内で紹介する。  |

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

|         |                        |
|---------|------------------------|
| 講義名     | 近代建築史                  |
| (副題)    |                        |
| 講義区分    | 講義                     |
| 基準単位数   | 2                      |
| 時間割     | 月曜日 1 限目               |
| 授業科目区分  | 専門科目－専門専攻科目－景観デザイン専攻科目 |
| 履修区分    | 専攻必修科目                 |
| 配当年次・学期 | 3 年次前期                 |

担当教員

|         |  |
|---------|--|
| 氏名      |  |
| ◎ 石渡 雄士 |  |

|                   |  |
|-------------------|--|
| 前提とする授業、密接に関係する授業 | 特になし   |
| 授業に関連するキーワード      | 近代建築の空間構造、都市空間と成り立ち。   |
| 授業の到達目標及びテーマ      | 日本における建築の近代化は、西洋の建築様式のリバイバルの時代から始まり、モダニズムの時代へと向かう。また日本近代建築の基礎となった欧米の産業革命以降の建築界の動向についても学習することで、わが国の近代の概念について広い視野で考えるとともに、それらの歴史を基礎知識として身に付けることを目指す。   |
| 授業の概要             | 前半（第2～9回）は、日本の近代建築史を主に扱う。建築分野において日本の近代化は西洋建築の受容から始まる。そして耐震建築の確立や日本的な建築の表現のあり方などを模索しながらモダニズムの時代へと向かうことを学ぶとともに、都市の近代化についても取り上げる。<br>後半（第10～14回）は、欧米の近代建築史を主に扱う。産業革命とともに新しい建築材料が大量生産され、同時に社会の近代化を背景に新しい建築造形が生み出され、モダニズム建築へと収斂していく歴史の流れを学ぶ。  |
| 授業計画              | 以下の構成で講義を進めるが、進捗状況などにより順序やテーマを変える場合がある。<br>第 1回 ガイダンス<br>第 2回 建築構造の成り立ち（伝統工法と西洋工法の概説）<br>第 3回 産業革命と洋風建築<br>第 4回 お雇い外国人の建築<br>第 5回 日本人建築家の誕生と建築<br>第 6回 耐震建築構造とその発展<br>第 7回 近代建築思潮と国際建築様式の展開、国民的様式の追求と様式の相対化<br>第 8回 都市の近代化<br>第 9回 日本の郊外住宅地とハウードの田園都市<br>第10回 アーツ・アンド・クラフツ運動<br>第11回 アールヌーヴォー、ウィーン・ゼツェッション、デ・スティール<br>第12回 フランク・ロイド・ライト<br>第13回 ミース・ファン・デル・ローエ<br>第14回 ル・コルビュジエ<br>第15回 まとめ<br><br>○実務経験のある教員等による授業科目に該当 |
| 授業時間外の学習内容等       | 配布資料および参考文献等を読むことで理解を深め、関連する建築や都市を実際に訪れて理解を深める。  |
| 評価方法              | 期末レポート100%   |
| テキスト              | 授業内に適宜プリントを配布する。   |
| 参考書・参考資料等         | 授業内で紹介する。  |

[ウィンドウを閉じる](#)